

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22004

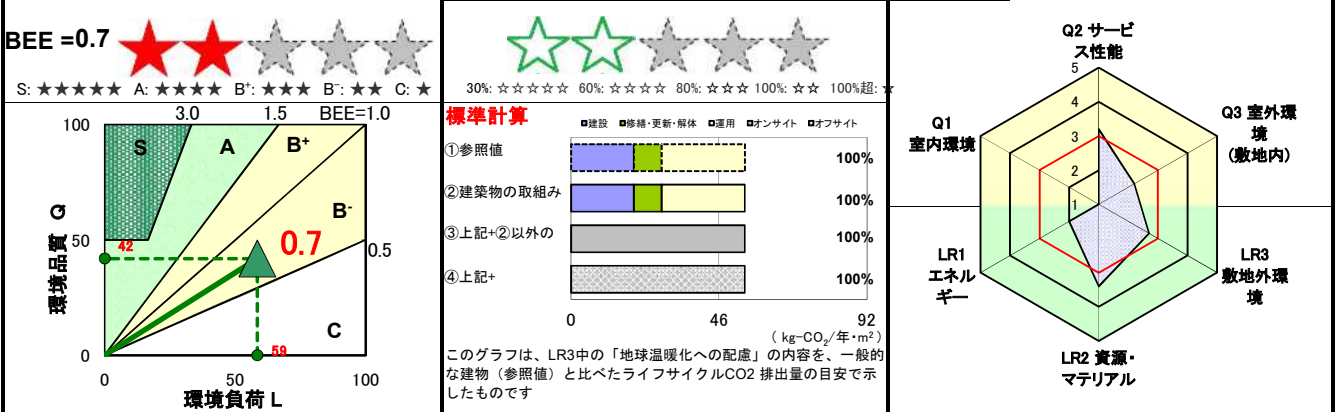
建築物名称	株式会社ENEOS NUC PJ-J製造建屋
建築主	株式会社ENEOS NUC 川崎工業所長 豊永 信広
建築物の所在地	川崎市川崎区浮島町8番1号
設計者氏名、建築士事務所名	山瀬 直輝 日揮株式会社
工事種別	新築
床面積の合計	3,410.46㎡
用途	工場
構造	鉄骨造
階数	地上8階
工事完了予定年月	令和6年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

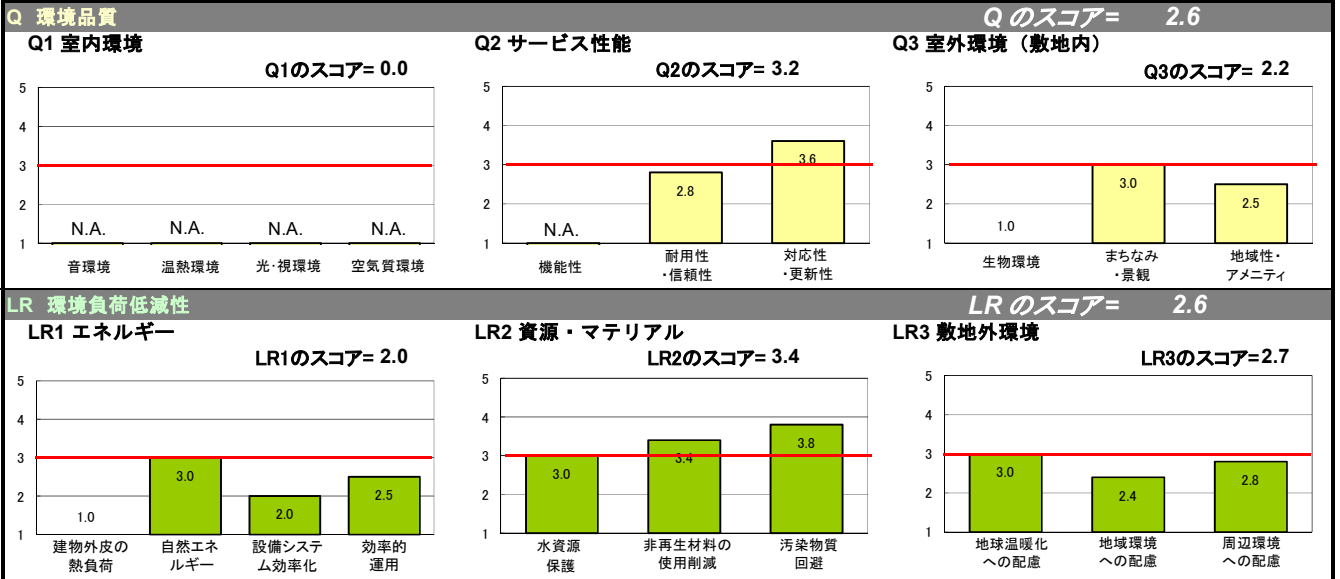
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株)ENEOS NUC PJ-J 製造建屋	階数	地上8階
建設地	川崎市川崎区浮島町8番1号	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし(法22条地域)	平均居住人員	4人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2024年1月23日
敷地面積	174,339 m ²	作成者	岡本 ひかり
建築面積	696 m ²	確認日	2024年1月25日
延床面積	3,410 m ²	確認者	平野 実紀雄

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮	緑地を設け、周辺の風景にバランスよく調和させている。		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	外壁・窓・屋根における断熱性能への配慮。敷地内緑地の適切な維持管理を行っている。	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.2
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	複層ガラスを採用。	0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	昼光利用設備がない。		
3.2 3.2.1 昼光制御	ブラインドでグレアを制御。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=---	2.0/5.0	2.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=1		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水コマの採用。	3.1/4.7	3.3
2 非再生性資源の使用量削減	リサイクル資材の使用。		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ガス消火剤を使用しない。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	建築基準法に定める対策が講じられている。	0.4/0.8	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水コマの採用。	2.6/4.0	3.3
2 非再生性資源の使用量削減	リサイクル資材の使用。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車スペースを確保している。	0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	1.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している。	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=---	2.0/5.0	2.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=1		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.2**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	建築基準法に定める対策が講じられている。	0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=---	2.0/5.0	2.0
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=1		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		竣工段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H	評価点	重み係数		評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													2.6
Q1 室内環境													
1 音環境													
1.1 室内騒音レベル													
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能													
2 界壁遮音性能													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
1.3 吸音													
2 温熱環境													
2.1 室温制御													
1 室温													
2 外皮性能			W										
3 ゾーン別制御性													
2.2 湿度制御													
2.3 空調方式													
3 光・視環境													
3.1 昼光利用													
1 昼光率													
2 方位別開口													
3 昼光利用設備			W										
3.2 グレア対策													
1 昼光制御			W										
3.3 照度													
3.4 照明制御													
4 空気質環境													
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質													
4.2 換気													
1 換気量													
2 自然換気性能													
3 取り入れ外気への配慮													
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視													
2 喫煙の制御													

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.2
1 機能性				-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1	広さ・収納性			-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1	広さ感・景観			-	-	3.0	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.8	0.50	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-	-
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			5.0	0.10	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備			1.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.6	0.50	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-	-	-
1	階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W	H	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮							-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H	-	2.0

LR 建築物の環境負荷低減性										2.6			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	2.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H	BPI=---	1.0	0.20	-	-	1.0	
2 自然エネルギー利用				W		H		3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				W		H	[BE][BEIm] = 1.00	2.0	0.50	-	-	2.0	
4 効率的運用								2.5	0.20	-	-	2.5	
集合住宅以外の評価								2.5	1.00	-	-		
4.1 モニタリング				W		H		3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制				W		H		2.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価								-	-	-	-		
4.1 モニタリング				W		H		3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				W		R		3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水								3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減								3.4	0.60	-	-	3.4	
2.1 材料使用量の削減				W		R		3.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R		3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	-	3.0	0.22	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	床:ビニル床材	3.0	0.22	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R		-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	LGSを使用している。	5.0	0.22	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.8	0.20	-	-	3.8	
3.1 有害物質を含まない材料の使用							PRTR法対象物質を含有しない建材を使用。	5.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避								3.3	0.70	-	-		
1 消火剤				W			不活性ガス消火剤を使用している。	4.0	0.33	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0	0.33	-	-		
3 冷媒				W				3.0	0.33	-	-		
LR3 数地外環境										0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮				W				3.0	0.33	-	-	3.0	
2 地域環境への配慮								2.4	0.33	-	-	2.4	
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.7	0.25	-	-		
1 雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制						R		3.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制						R		2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-		
1 騒音								3.0	0.33	-	-		
2 振動								3.0	0.33	-	-		
3 悪臭								3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-		
1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-		
2 砂塵の抑制								3.0	-	-	-		
3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制								2.3	0.20	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								2.0	0.70	-	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-		